

メディア記載情報 2023 年度まとめ

- ・2024年3月31日/フジテレビ『Mr.サンデー』/福島県でのクマの立てこもりのニュースに関連してクマの生態について小池先生のコメントが放映される。
- ・2024年3月28日/読売新聞『みんなのカガク いきものホント? 凶鑑 越冬と目覚め編下 飲まず食わずで春待つ』/クマの生態について、農工大小池伸介教授の解説が掲載される。
- ・2024年3月7日/北海道新聞『ヒグマ 種子の運び屋 木の実食べ、最大6キロ先で排出 道総研 正常に発芽「生物多様性に貢献」』/道内に生息するヒグマがサルナシなどの木の実類を食べた際、最大約6キロ離れた地点まで移動してから種子をふんと一緒に排出することが道立総合研究機構の研究でわかった。小池伸介教授のコメントが掲載される。
- ・2024年2月8日/NHK『秋田 倉庫にクマ入り込み丸2日 24時間体制で警戒続く』/「6日、秋田市郊外にある倉庫にクマが入り込んだが未だ捕獲できていない」ニュースにあわせて、小池伸介教授のコメントが掲載される。
- ・2024年2月7日/NHK『【秋田 NEWS WEB】秋田 倉庫にクマ入り込む わな設置も捕獲できず監視続く』/「6日、秋田市郊外にある倉庫にクマが入り込んだが未だ捕獲できていない」ニュースにあわせて、小池伸介教授のコメントが掲載される。
- ・2024年2月7日/NHK『ニュースウォッチ9』/「冬眠しないクマについての解説」秋田市で倉庫に居続けるクマや去年の被害状況とあわせて、なぜクマが冬眠しないのかについて小池伸介教授の見解が放映される。
- ・2024年2月5日/毎日新聞『【コモンエイジ 公共のかたち 11】クマ撃退へ AI 駆使 市街地に出没 被害相次ぐ 前代未聞 バス停にクマ マタギ「山が押ししてきた」 シカ食害 土砂崩れ招く 共生のカギ 捕獲とすみ分け』/2023年は市街地に出没する「アーバンベア」の増加でクマによる人身被害が各地で相次いだ。農工大は、野生動物対策を専門的に担う人材育成の拠点として、2022年に「野生動物管理教育研究センター」を開設。副センター長を務める小池伸介教授のコメントが掲載される。
- ・2024年1月23日/毎日新聞『クマの生息域、40年で2倍 専門家分析「人口減少が影響」』/クマの生息域が40年間で約1.95倍に拡大していることが、農工大小池伸介教授の分析で明らかになったと紹介される。
- ・2024年1月16日/丹波新聞『成果上げた県のクマ対策 研究者が最新知見紹介 2月にシンポジウム/兵庫・丹波市』/兵庫県森林動物研究センター（所長 農工大 梶光一名誉教授）はオンラインシンポジウム「野生動物の保全と管理の最前線」を開くと掲載される。
- ・2023年12月26日/テレビ東京『WBS（ワールドビジネスサテライト）』/テーマ「都内でクマの出没も…政府が対策検討会」でクマの出没に関して、小池先生のインタビューが放映される。
- ・2023年12月20日/山と溪谷社『特別講演は「山の環境とクマの活動の変化」がテーマ 「2023年度日本山岳遺産サミット」を2024年2月3日（土）に開催』/「2023年度 日本山岳遺産サミット」の特別講演で、「山の環境とクマの活動の変化」をテーマに小池先生が登壇されると紹介される。
- ・2023年12月15日/ブックバン『【クマ被害】実を付けた柿の木を放置しない… 「自分は大丈夫」は危ないと専門家が警鐘』/全国各地でクマの被害が相次ぐ中、ツキノワグマの生態を研究する小池先生の

取材が紹介される。「自分は大丈夫」だと思って対策を怠るなどの当事者意識の欠如が危険を招くと警鐘を鳴らす。

・2023年12月15日/ブックバン『【クマ駆除】集めた糞は3000個以上！クマ好きの研究者でさえ「駆除は必要」と主張するワケ』/小池先生の『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら〜ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』が紹介される。

・2023年12月15日/テレビ朝日『タモリステーション』/「気候変動」がテーマ。人的被害が過去最高のクマについて、小池先生のインタビューやツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年12月10日/毎日新聞『【そこが聞きたい】クマにどう向き合うか 東京農工大教授・小池伸介氏「すみ分け」具体化する時』/クマの人的被害が拡大していることについて、分布を拡大するクマに人はどう向き合えばいいのか、小池先生のインタビューが紹介される。

・2023年12月6日/Science Portal『南アルプス山麓のコウモリ2種、体の大小による違いで食い分けて共存 東京農工大など』/山梨県の南アルプス山麓の森に住み、見た目がそっくりで共通の特徴を持つ近縁のコウモリ2種が、体の大小による違いによって餌を食い分けて共存している可能性があることを、農工大の高田准教授らが明らかにしたと、紹介される。

・2023年12月2日/NHK『石丸謙二郎の山カフェ』/クマの専門家として小池先生が出演。

・2023年12月1日/NHK『クマ被害人数11月までに211人で過去最多 冬眠時期も注意を』/全国で相次ぐクマの被害について、小池先生のインタビュー記事が掲載される。

・2023年11月26日/サンデー毎日『秋田・鷹巣 迫真ルポ 気をつけろ あなたの隣に クマはいる 消える「境界線」』/秋田県鷹巣で起きたクマの被害についての記事。小池先生のコメントが掲載される。

・2023年11月23日/テレビ朝日『林修の今でしょ!』/「危険生物、異常気象」2時間半スペシャル。クマの専門家として小池先生が出演。

・2023年11月23日/日本経済新聞『「冬も眠らぬクマ」おびえる街 人的被害最多の秋田ルポ』/各地で相次ぐクマの出没。出没が止まらない秋田市の現状についての記事で、小池先生のコメントが掲載される。

・2023年11月22日/NHK『検証 被害増加の背景は？「クマ被害増加の背景にメガソーラー？」根拠不明の情報に注意』/「大規模な太陽発電施設がクマの出没に関係しているのでは」といった十分な根拠のない情報がSNSで拡散しているとし、それに対する小池先生のコメントが掲載される。

・2023年11月20日/朝日小学生新聞『クマの被害 今年是最悪、なぜ？ ドングリ不作で人里へ 森との境界あいまいに』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生のインタビューが掲載される。

・2023年11月20日/北海道新聞『クマ被害10倍 秋田「異常」市街地8割 捕獲追い付かず』/全国でクマによる被害が相次ぐ中、秋田県では全国最悪の被害が出ている。小池先生の見解が掲載される。

・2023年11月20日/NHK『視点・論点』/クマとヒトとが干渉せずに住み分ける生態系保全の構築のために何ができるのか。今後の対策について語る小池先生が放映される。

・2023年11月20日/全国商業新聞『【視点】各地で相次ぐクマの出没 東京農工大学大学院小池伸介 森のドングリ不作が主因 過疎化が人里侵入を助長』/全国で相次ぐクマの被害について、小池先生の記事が掲載される。

・2023年11月19日/秋田魁新報『市街地でのクマ対策、住民の安全を最優先に 平時から関係機関連

携を 識者に聞く(4)』/全国で相次ぐクマの被害について、**小池先生**のコメントが掲載される。

・2023年11月17日/NHK 秋田放送局『東北ココから』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューが放映される。

・2023年11月17日/しんぶん赤旗『【科学リポート】人里にクマ続出 ドングリ凶作 食べ物探すうちに… 過疎化進む中山間地域 棲み分け曖昧に』/東北地方を中心とした人里に出没したクマに襲われる被害が頻発していることについて、**小池先生**のインタビュー記事が掲載される。

・2023年11月16日/NHK 秋田放送局『ニュースこまち』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューが放映される。

・2023年11月15日/NHK 富山放送局『NEWS 富山人』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューが放映される。

・2023年11月14日/TBS『THE TIME』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューが放映される。

・2023年11月13日/NHK『出川哲朗のクイズほお〜スクール』/**小池先生**が監修した問題が出題される。

・2023年11月11日/静岡朝日テレビ『とびっきり! しずおか土曜版』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューやツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年11月10日/NHK『NHK ニュースおはよう日本』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューやツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年11月9日/NHK『【WEB 特集】クマ行動記録から見えてきたこと“人とクマとの陣取り合戦”』/クマ被害を無くすにはどう対策したらいいかを考える。**小池先生**のインタビューやツキノワグマの生態調査について掲載される。

・2023年11月9日/日本テレビ『DayDay.』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**への取材やツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年11月7日/関西テレビ放送『旬感ライブ とれたてっ!』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のツキノワグマの生態調査映像が放映される。

・2023年11月6日/TBS NEWS DIG『クマの被害が過去最多 世界初の映像から分かるクマの生態を知り身を守ろう【ひるおび】』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のツキノワグマの生態調査映像について掲載される。

・2023年11月6日/TBS『ひるおび!』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューやツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年11月6日/NHK『クローズアップ現代』/「激増! クマ被害…記録映像とデータマップで見えた“出没の真相”」をテーマに**小池先生**が出演される。

・2023年11月5日/富山テレビ『BBT 報道 シンそう富山』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のインタビューやツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年11月4日/産経ニュース『クマ被害、北海道から西日本まで広がり過去最多 マップで見る出没状況』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**の取材記事が掲載される。

・2023年11月3日/中京テレビ NEWS『“クマの生態は未だ謎が多い”専門家が語るクマ対策の難しさとは? 研究チームが生態調査』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、**小池先生**のコメントやツ

キノワグマの生態調査について放映される。

・2023年11月3日/日本経済新聞『「都市型クマ」急増、被害過去最悪に 近寄せぬ対策を』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の取材記事が掲載される。

・2023年11月2日/TBS『ひるおび』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年11月1日/朝日新聞『クマ被害最多 今年177人 環境省など会議 専門家を自治体派遣へ』/全国でクマによる被害が相次いでいるとし、農工大小池教授の見解が掲載される。

・2023年11月1日/The Ssahi Shimbun『Ministry to send experts to deal with bear attack crisis in Japan』/ Shinsuke Koike, a professor of ecology at the Tokyo University of Agriculture and Technology, said a poor harvest of nuts is one of the reasons for the increase in bear attacks, but pointed out that an environment has been created that makes it easier for bears to encroach upon human settlements.

・2023年10月31日/NHK (ラジオ)『7時のニュース』/全国的なクマの出没、被害について、クマの専門家の小池先生のインタビューが放送される。

・2023年10月30日/毎日新聞デジタル『止まらないクマ被害、全国で過去最悪173人 ブナ凶作の東北で次々』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解が掲載される。

・2023年10月30日/毎日新聞デジタル『クマ被害が過去最悪173人 ブナ凶作、生息域拡大のデータ可視化』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解が掲載される。

・2023年10月30日/PHP オンライン衆知『クマの糞を291個拾った学生を、研究の道に導いた“卒論提出3ヶ月前の悲劇”』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。

・2023年10月30日/PHP オンライン衆知『“捕獲したクマ”のウンコに混じる鳥のくちばし？糞分析で研究者が得た意外な知見』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。

・2023年10月28日/TBS テレビ『情報7days ニュースキャスター』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年10月28日/読売テレビ『ウエークアップ』/全国的なクマの出没、被害について、クマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。

・2023年10月27日/TBS テレビ『THE TIME』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年10月26日/テレビ朝日『スーパーJチャンネル』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年10月26日/テレビ朝日『羽鳥慎一モーニングショー』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。

・2023年10月24日/NHK『ニュースウオッチ9』/全国的なクマの出没、被害について、クマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。

・2023年10月24日/FNN プライムオンライン『24日も…クマが女性襲う クマ目線で分析 対策は？』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。

- ・2023年10月24日/朝日放送テレビ『news おかえり』/全国的なクマの出没、被害について、クマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。
- ・2023年10月24日/名古屋テレビ『ドデスカ!』/全国的なクマの出没、被害について、クマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。
- ・2023年10月24日/テレビ朝日『スーパーJチャンネル』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。
- ・2023年10月23日/テレビ朝日『報道ステーション』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。
- ・2023年10月23日/テレビ朝日『スーパーJチャンネル』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について放映される。
- ・2023年10月23日/テレ朝 NEWS『東京・町田や絶滅伊豆でも出没…過去最悪クマ襲撃 もし遭遇したら…対処法』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について掲載される。
- ・2023年10月23日/テレ朝 NEWS『東京でもクマ 専門家遭遇時とるべき行動…知られざる生態「熊カメラ」』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について、小池先生の見解やツキノワグマの生態調査について掲載される。
- ・2023年10月23日/PHP オンライン衆知『森の中で危うく死にかけ…クマ研究者が経験した「絶体絶命の屋外調査」』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。
- ・2023年10月23日/PHP オンライン衆知『捕獲したクマのウンコに混じる鳥のくちばし？糞分析で研究者が得た意外な知見』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。
- ・2023年10月20日/The Japan Times『Bear attacks on the rise in Akita and Iwate due to lack of food』/Shinsuke Koike, a professor of ecology at Tokyo University of Agriculture and Technology, said acorn crops have been poor this year, causing bears to roam in areas they don't usually enter.
- ・2023年10月19日/NHK『首都圏ネットワーク』/全国的なクマの出没、被害について、クマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。
- ・2023年10月18日/PHP オンライン衆知『ツキノワグマのウンコを食べてみた…研究者が語った「糞から漂う香しさ」』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。
- ・2023年10月17日/NHK『ニュースウオッチ9』/各地で相次いでいるクマの出没や被害について小池先生へのインタビューが放映される。
- ・2023年10月16日/Infoseek『ツキノワグマのウンコを食べてみた…研究者が語った「糞から漂う香しさ」』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。
- ・2023年10月14日/JIJI.COM『クマ被害頻発、今後も注意＝秋田、岩手で最多記録-餌不足原因か、市街地に出没』/東北地方を中心に、クマに襲われる被害が頻発している。クマの専門家として小池先生の見解が掲載される。

- ・2023年10月12日/プレジデントオンライン『冬眠中のクマを覗いたら目を覚まし、振り返り…思い出すたびゾットする体験』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。
- ・2023年10月10日/プレジデントオンライン『メスに目配せした後、オスは子グマを食べた…ツキノワグマに装着したカメラがとらえた衝撃的な映像』/小池先生の本『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の一部再編集したものが掲載される。
- ・2023年10月10日/NHK『NHK ニュースおはよう日本』/多発するクマの出没にクマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。
- ・2023年10月9日/AERA dot『採集したクマの「ウンコ」は3千個！「好き」を突き詰めた研究者がつづる苦難と笑いに満ちた研究最前線』/『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の著者、小池先生のインタビュー記事が紹介される。
- ・2023年10月9日/読売新聞『クマ目撃114件 5年で最多 宿泊施設や学校に侵入 9月末まで』/栃木県内でクマの目撃情報が相次いでいる。ツキノワグマの生態に詳しい小池先生の見解・提言が掲載される。
- ・2023年10月6日/毎日新聞『カモシカ威嚇 シカはシカト 両種遭遇時の行動 東農工大調査 通説反する「関係」 繁殖にも影響？/長野』/農工大 高田特任准教授らの研究チームが約8年に及び観察で調べると、通説に反する両者の関係が見えてきたと、紹介される。
- ・2023年10月5日/EXPLORERSWEB『Robot 'Monster Wolves' in Japan Scare Bears, Boars』/ More and More, rural farmlands in the foothills that once acted as buffer zones between the bears and humans are disappearing, Shinsuke Koike, a specialist in biodiversity, forest ecosystem, and bears at the Tokyo University of Agriculture and Technology, told the BBC.
- ・2023年10月2日/JBpress『クマのウンコを3000個集めた教授が語る、文明と野生動物はどう関わるべきか』/『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』を上梓した小池先生のインタビュー記事が紹介される。
- ・2023年10月2日/AERA『【この人この本】クマ研究者がつづる 愛に溢れた研究最前線』/『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』を上梓した小池先生のインタビュー記事が紹介される。
- ・2023年10月2日/NHK『NHK ニュースおはよう日本』/多発するクマの出没にクマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。
- ・2023年10月1日/しんぶん赤旗『【本と人と】『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら』小池伸介さん ふんは森の未来そのもの』/『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』の著者、小池先生のインタビュー記事が紹介される。
- ・2023年10月1日/BBC『Bears versus robot wolves in ageing Japan』/More and More, rural farmlands in the foothills that once acted as buffer zones between the bears and humans are disappearing, said Shinsuke Koike, a professor at the Tokyo University of Agriculture and Technology whose research centres on bears, biodiversity, and forest ecosystems.
- ・2023年10月1日/テレビ朝日『ナニコレ珍百景』/民家近くでのカモシカの出現にカモシカの専門家・高田先生のインタビューが放映される。

・2023年10月1日/NHK『ニュース7』/多発するクマの出没にクマの専門家の小池先生のインタビューが放映される。

・2023年10月1日/NHK『【ニュース深掘り】 出没警報 発令中 車から降りたらクマ・・・全国でクマ被害相次ぐ どうすれば?』/多発するクマの出没にクマの専門家の小池先生のインタビューが掲載される。

・2023年9月22日/毎日新聞『【毎小ニュース】環境 「幻の動物」が街に 餌を取られて?』/かつて「幻の動物」と言われ、国の特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが市街地に姿を現すようになったことについて、高田隼人特任准教授のコメントが紹介される。

・2023年9月22日/毎日新聞『カモシカ威嚇 シカはシカト 遭遇時の行動 東農工大調査』/山でカモシカとシカが出会ったとき、どのような行動を取るのかを高田隼人特任准教授らの研究チームは約8年に及ぶ観察で調べると、通説に反する両者の関係が見えてきたと紹介される。

・2023年9月12日/毎日新聞『【くらしナビー環境-】 餌争奪に敗れ? 「幻の動物」が市街地に』/かつて「幻の動物」と言われ、国の特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが市街地に姿を現すようになったことについて、高田隼人特任准教授のコメントが紹介される。

・2023年9月10日/毎日新聞『かつては「幻」今は悩みの種? カモシカはなぜ街に来るのか』/かつて「幻の動物」と言われ、国の特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが市街地に姿を現すようになった。3年余カモシカとシカの行動を観察した高田隼人特任准教授のコメントが紹介される。

・2023年9月10日/毎日新聞『山で出会ったカモシカ 攻撃をしかけるのはどっち?』/山でカモシカとシカが出会ったとき、どのような行動を取るのかを農工大・高田隼人特任准教授らの研究チームが約8年に及ぶ観察で調べると、通説に反する両者の関係が見えてきたと、紹介される。

・2023年8月31日/北海道新聞『野生鳥獣「保護から管理へ」 東京農工大名誉教授・梶さん 適正数の維持、著書で訴え』/梶光一名誉教授の新刊『ワイルドライフマネジメント』が紹介される。

・2023年8月25日/NHK (埼玉)『秩父 目撃相次ぐ 小中学生にクマよけの鈴配布 専門家は』/埼玉県秩父市でクマの目撃情報が相次いでいる。クマの専門家として、小池伸介教授の見方や注意喚起などコメントが掲載される。

・2023年8月25日/NHK『首都圏ネットワーク』/埼玉県秩父市でクマの目撃情報が相次いでいる。クマの専門家として、小池伸介教授の見方や注意喚起などコメントが放映される。

・2023年8月23日/マイナビニュース『農工大など、メスの野生ツキノワグマの「生活史パラメータ」の定量調査を実施』/農工大と東京農大は、日本の本州中部に生息するツキノワグマ個体群の繁殖と死亡に関する情報のうち、初めて5つの情報（初育児成功年齢、育児成功間隔、自然死亡率、人為死亡率、1歳の子の死亡率）を定量的に明らかにしたことを発表した、と紹介される（栃木香帆子さん、小池伸介教授、Sam Steyaert 准教授）。

・2023年8月23日/TECH+『農工大など、メスの野生ツキノワグマの「生活史パラメータ」の定量調査を実施』/農工大と東京農大は、日本の本州中部に生息するツキノワグマ個体群の繁殖と死亡に関する情報のうち、初めて5つの情報（初育児成功年齢、育児成功間隔、自然死亡率、人為死亡率、1歳の子の死亡率）を定量的に明らかにしたことを発表した、と紹介される（栃木香帆子さん、小池伸介教授、Sam Steyaert 准教授）。

・2023年8月23日/NHK『ニュースウォッチ9』/クマの出没が各地で相次いでいる背景や、出没時の

対策、クマの生態・特徴などについて**小池伸介教授**のコメントが放映される。

・2023年8月19日/日本経済新聞『野生クマ生態研究「フン闘」記 集めたウンコは3000個 ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら 小池伸介さん(あとがきのあと)/**小池伸介教授**の新刊『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら～ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』。ツキノワグマ研究者の「フン闘」が紹介される。

・2023年8月19日/日本経済新聞『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら 小池伸介氏 謎の多い生態に迫る「フン闘」』/**小池伸介教授**の新刊『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら～ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』。クマについての取材が紹介される。

・2023年8月15日/月刊ジュニアアエラ『サイエンスジュニアアエラ』/**小池伸介教授**の「引っ付き虫は誰が運ぶ?～動物に付着する種子の猿に影響する要因の解明～」の研究成果について取材が掲載される。

・2023年8月12日/日本テレビ『ズームイン!!サタデー』/東京23区内の野生動物の状況と被害について**小池伸介教授**のコメントが紹介される。

・2023年8月11日/よろず～ニュース『ウンコ調査からツキノワグマ研究パイオニアに「ネガティブなイメージ変えたい」知られなさすぎる生態』/クマについて**小池伸介教授**への取材が掲載される。

・2023年8月9日/日本経済新聞『野生クマ生態研究「フン闘」記 集めたウンコは3000個 ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら 小池伸介さん(あとがきのあと)/**小池伸介教授**の新刊『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら～ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』が紹介される。

・2023年8月8日/日本テレビ『news every.』/東京都23区内の野生動物の状況と被害について、**小池伸介教授**のコメントが放映される。

・2023年8月2日/朝日新聞DIGITAL『カモシカとシカ、出会ったら 体小さいカモシカが攻撃、シカは平然』/カモシカとシカが野山で遭遇すると、体が小さいカモシカの方が、体の大きいシカに対して攻撃的な行動をとることが、**高田隼人特任准教授**の研究チームの調査で分かったと、紹介される。

・2023年8月2日/朝日新聞『カモシカとシカ、出会ったら 体小さいカモシカが攻撃、シカは平然』/カモシカとシカが野山で遭遇すると、体が小さいカモシカの方が、体の大きいシカに対して攻撃的な行動をとることが、**高田隼人特任准教授**の研究チームの調査で分かったと、紹介される。

・2023年8月2日/朝日新聞DIGITAL『シカがあらわれた!カモシカ「たたかう にげる ぼうぎょ」どれ?』/カモシカとシカが野山で遭遇すると、体が小さいカモシカの方が、体の大きいシカに対して攻撃的な行動をとることが、**高田隼人特任准教授**の研究チームの調査で分かったと、紹介される。

・2023年7月28日/ねとらぼ『夏休みに読みたい“クマのウンコ”採集エッセイ のべ3000個のウンコを集めたウンコソムリエ研究者が教えるすごいウンコ、人生が面白くなるヒントとは』/**小池伸介教授**の新刊『ある日、森の中でクマさんのウンコに出会ったら～ツキノワグマ研究者のウンコ採集フン闘記』が紹介される。

・2023年7月23日/安住紳一郎の日曜天国/ヒグマの生態やOSO18が特別とされる理由、今回カラー写真が公開されたことによる今後の展望などについて、**小池伸介教授**への取材が紹介される。

・2023年7月18日/FNNプライムオンライン『【小さな大冒険】正誤1～2か月?子ダヌキ2匹ちょこちょこ歩く 専門家「昼間に出てくるのは珍しい」 岩手・盛岡』/岩手県盛岡市立病院の敷地で、子ども2匹のタヌキが歩いている映像が撮られた。この映像、実はとても珍しいものだと、**小池伸介教授**

のコメントが紹介される。

・2023年7月17日/FNNプライムオンライン『目の前に子ダヌキ2匹 専門家「珍しい」』/岩手県盛岡市立病院の敷地で、子どもの2匹のタヌキが歩いている映像が撮られた。この映像、実はとても珍しいものだと、小池伸介教授のコメントが紹介される。

・2023年7月17日/NEWS SALT『継続観察で見えてきたシカとカモシカの関係性 農工大など』/農工大・高田隼人特任准教授らの研究グループは、シカとカモシカの直接的な交渉を8年間直接観察、シカからカモシカへの攻撃は観察されなかったのに対し、カモシカからシカへの攻撃は多数観察されたと発表したと紹介される。

・2023年7月4日/NEWS ポストセブン『奈良の鹿「おじぎ行動」が減少していた コロナ禍で観光客との交流が減っていったことが原因か』/コロナ禍が動物の行動に影響を与えた。奈良の鹿のおじぎ行動が減少しただけでなく、タヌキやアライグマの食生活の時間帯も大きく変化したと紹介される。

・2023年6月26日/朝日新聞『餌がほしけりゃ足で稼げ 富士山生息のカモシカ 農工大調査 他地域の30倍』/農工大高田特任准教授の研究チームは、富士山に生息するカモシカは、他の森林帯にいるカモシカより30倍も広い行動範囲だったという研究結果を得た、と紹介される。

・2023年6月23日/朝日新聞『富士山のカモシカ、足で稼いで餌求める 他地域より30倍の行動範囲』/国内のニホンカモシカの中で、富士山で生息するカモシカが最も足で餌を求めていたことが農工大高田特任准教授の研究チームの調査結果で得られたと紹介される。

・2023年6月14日/朝日新聞 DISITAL『「ひつつき虫」は謎だらけ 博物館の剥製と挑む世界でもまれな研究』/植物の体にくっついて運ばれる植物の種子「ひつつき虫」。ひつつき虫は、どんな野生動物に付きやすいのか。東京農工大（東京都）と茨城県自然博物館（坂東市）のグループが、世界でもあまり例がない研究に剥製（はくせい）を使って取り組んだ、と紹介される。

・2023年6月14日/日本テレビ『news every.』/小池伸介教授のコメントが放映される。

・2023年6月10日/子供の科学 2023年7月号『“ひつつき虫”を運ぶのは誰?』/東京農工大学とミュージアムパーク茨城県自然博物館の研究グループは、哺乳類6種類の剥製模型をつくって実験を行ったと紹介される。

・2023年6月10日/子供の科学 2023年7月号/高田先生の、富士山に生息するシカとカモシカの種間関係とその研究成果について掲載される。

・2023年6月7日/日本テレビ『news every.』/小池伸介教授のコメントが放映される。

・2023年6月2日/朝日新聞『くっつく植物の種子「ひつつき虫」野生動物に付着の実態は 体毛の長さ・体の高さが関係 東京農工大など剥製使い実験』/ひつつき虫は、動物の種類によって付きやすさが異なり、体毛の長さや体高が関係していたことが、東京農工大と茨城県自然博物館のグループによる剥製を使った実験で明らかになったと紹介される。

・2023年5月26日/読売新聞『ヒグマ年齢 血液で推定』/ヒグマの血液から連例を誤差1歳ほどの高精度で推定する手法を開発したとの発表に対して、宇野先生の見解が掲載される。

・2023年5月24日/朝日新聞『「ひつつき虫」付きやすい野生動物は?所蔵の剥製活用し実験 中型哺乳類6種 毛の長さ・体高で差』/ひつつき虫は、動物の種類によって付きやすさが異なり、体毛の長さや体高が関係していることが、東京農工大と県自然博物館のグループによる剥製を使った実験で明らかになったと紹介される。

- ・2023年5月10日/朝日新聞『定年後の学び直し、70歳で博士号 カメラが見た都市タヌキの生態は』/定年退職後に大学に入り直し、70歳で博士号をとった男性として、東京農工大学の研究員大杉滋さんが紹介される。
- ・2023年5月10日/朝日新聞『「面白いね」を求めて、何歳でも学ぶ 定年退職後に大学へ、70歳で博士号』/定年退職後に大学に入り直し、70歳で博士号をとった男性として、東京農工大学の研究員大杉滋さんが紹介される。
- ・2023年5月4日/読売新聞『種の運び屋ハクビシン、自然界では森林の守り役?』/東京農工大の小池伸介教授らは、アライグマも「種の運び屋」であることを突き止めたと紹介される。
- ・2023年4月27日/日刊工業新聞『東京農工大、ニホンジカとニホンカモシカの食性における種間関係を解明』/東京農工大学の小池伸介教授らは、ニホンジカとニホンカモシカの食物における種間関係を明らかにしたと紹介され、提供写真が掲載される。
- ・2023年4月27日/日刊工業新聞『ニホンジカとニホンカモシカの食性の種間関係を解明 東京農工大』/東京農工大学の小池伸介教授らは、ニホンジカとニホンカモシカの食物における種間関係を明らかにしたと紹介され、提供写真が掲載される。
- ・2023年4月27日/読売新聞『みんなのカガク いきものホント? 図鑑・外来種編3 ハクビシン 種の運び屋 森林守る?』/東京農工大の小池伸介教授らは、アライグマも「種の運び屋」であることを突き止めましたと紹介される。
- ・2023年4月27日/フジテレビ『奇跡体験!アンビリバボー【前代未聞!街のど真ん中にクマ出没!】』/今回の事例や近年の野生動物の市街地出没について、東京農工大学の教授(小池伸介氏)が出演し、「共生の術」について語る。
- ・2023年4月20日/大学ジャーナル『動物に付着する種子の量に影響する要因、東京農工大学が検証』/東京農工大学大学院の佐藤華音氏(修士課程学生)らの研究チームは、ミュージアムパーク茨城県自然博物館と共同で、動物の体表に付着する種子の量は動物種によって異なり、体毛の長さや動物の体高が付着する種子の数に影響することを明らかにしたと紹介される。
- ・2023年4月13日/マイナビニュース『農工大、“ひっつき虫”型種子の動物への付着量に差が生じる要因を解明』/東京農工大学(農工大)は4月12日、「付着散布」を行う“ひっつき虫”型の植物の種子を対象に、6種の中型ほ乳類の剥製模型を使用して、動物の体表に付着する種子の量に種間で違いが生じる要因を解明したと発表したと紹介される。
- ・2023年4月13日/ナゾロジー『ひっつき虫は自然界では誰にひっついているのか』/東京農工大学大学院農学府に所属する佐藤華音氏ら研究チームは、動物のはく製模型を使用して、どの動物がひっつき虫を多く運んでいるのか調査したと紹介される。
- ・2023年4月13日/茨城新聞『「ひっつき虫」付着要素解明 研究論文、仏誌に掲載 茨城県自然博物館・東京農工大』/県自然博物館と東京農工大の共同研究チームは12日、動物に付着する植物の種子「ひっつき虫」について、動物の種類や体毛の長さ、体高の3要素が付着量に影響すると解明したと発表したと紹介される。
- ・2023年4月11日/日本経済新聞『東京農工大、シカとカモシカの食物をめぐる種間関係を解明』/東京農工大学大学院農学府 修士課程学生 比留間光子、同大学農学部附属野生動物管理教育研究センターの高田隼人特任准教授、同大学院グローバルイノベーション研究院の小池伸介教授、山梨県富士山科学

研究所研究部自然環境科鷺田茜らの共同研究チームは山梨県富士山麓の亜高山帯針葉樹林および高山帯火山荒原においてニホンジカとニホンカモシカを対象に糞分析による食性調査を実施し、2種の食物をめぐる種間関係を解明したと紹介される。

・2023年4月8日/大学ジャーナル『富士山高山帯のニホンカモシカは行動圏も生息地選択の季節変化も大きい、東京農工大学』/東京農工大学の**高田隼人特任准教授**（当時、山梨県富士山科学研究所）は山梨県の富士山高山帯に生息するニホンカモシカの空間行動を調査し、森林に生息するカモシカと大きく異なる空間行動を持つことを世界で初めて明らかにしたと紹介される。